祝 WASEDA 125 ANNIVERSARY

杜の西北

平成２０年３月　第１４号

会　報
早稲田大学
東久留米稲門会
年一回発行

稲門会を考える

三多摩五市の稲門会長が語る

東久留米と隣接の小平、西東京、東村山、清瀬

早大創立１２５周年。早大はいま、国際化路線をひた走り、医学分野への進出を計る一方で伝統の「自由放任」から脱却し、「チュートリアル」体制に大きく変革しようとしている。

早大校友会は大学創立から３年後の明治１８年（１８８５年）の発足である。今や早大校友総数は５３万人を数え、地域稲門会、海外稲門会、職域稲門会を合わせて１，２００余の団体をかかえる大組織である。母校早稲田大学に留まらず、自ずと社会に及ぼす影響力・使命は決して小さくない筈である。

大学創立１２５周年を機に、校友会を見つめ直し、その在り様について変革を唱える声も内外より出ている。

当東久留米・市川英雄会長並びに小平・西村弘会長、西東京・林郁彦会長、東村山・三宅良太会長、清瀬・中根正雄会長の近接４市の稲門会会長にお集まり頂き、それぞれの現況、抱えている問題点、今後の方針などにつき忌憚無いご感想、ご意見を交換していただきたく、座談会を開催した。司会は当稲門会事務局長の平山正徑さん。

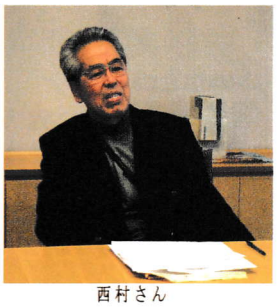
―　本日はご多用中のところお集まり頂きありがとうございます。大学創立１２５周年を迎えたいま、私たち稲門会もその来し方を振り返り、内在する問題点などを確かめ合って、今後の在り様などにつきお話し合いさせてもらう良い機会と考えました。本日は近隣のよしみをもって忌憚の無いご意見ご感想を頂ければ幸いです。はじめに皆様方稲門会の生い立ち、現況につき順次お話下さい。口火として当稲門会市川会長からお願いします。

市川さん

市川さん　　本日はご来席頂き有難うございました。当会は平成7年4月、66名の会員でスタートしました。都で33番目の誕生とのことです。当時校友会常務理事であった安宅武一さん以下19名が発起人となって数回の設立委員会を経、立ち上げ資金を出し合って設立に漕ぎ付けたものです。大学から卒業生名簿をもらい約860名の校友に入会を促したのですが、当時たまたま市議会議員の選挙があり、立候補者が校友にいたため、選挙運動のための支援団体だという風説が流れ、それを嫌って入会を拒否或いは見送りした校友が少なからずありました。後の役員会で喧々諤々と議論の末、**政治、宗教、営業とは一線を画す**旨会則に規定することになったのですが、未だにこの誤解は解消し切れていないかもしれませんね。

現在の在住校友数は1、000名を超えていますが、会員数はここ数年横ばいで160名前後で推移しています。会員年齢構成は、65歳未満が60％、66歳以上が40％です。平成に入ってからの卒業生で会員となったのはたったの5名です。団塊の世代が定年を迎えた時代に突入して、職域稲門会から地域稲門会に編入する校友を期待して

いますが、大きな変化には結びついてはいません。


西村さん

西村さん　平成元年11月に設立されました。当市在住の商学部の岡田教授が音頭をとり同年8月、設立準備委員会を立ち上げ、僅か4回の会合で発会に至りました。西武新宿沿線には大学関係者が大勢在住されていますが、都下の校友人数では八王子、町田に次いで西東京が3位に位置し、小平は7位です。
発足当時、市在住校友数は1、300名位でしたが、入会者は450名に昇り、これはすごい、イケると思いました。しかしその後じり貧傾向を辿り、2年に亘り会費を納めない人は会員名簿から抹消するなど整備して、19年後の現在は在住校友数は2, 181名となっていますが、会員数は250名程、入会率12%弱と低迷しています。
会員構成はどこも大差ないとは思いますが60、70歳台が中心です。発足当時は女性会員も結構多く、既存稲門会にもあまり見られない女性の副会長もいて活発でした。来年は節目の設立20周年です。若年齢層の掘り起こし、女性会員の増強など巻き返しを計りたいと思っています。

低い入会率、固定化・高齢化する会員

三宅さん　平成８年１１月発足しました。現在在住校友数１、２８５名、会員数は２１０名、組織率は１６．３％です。平成卒会員は僅かに１０名で、年々会員平均年齢が上がり、今年度は６４．５歳です。会員の顔ぶれが変わらず、自ずと高齢化が進んでいます。最高齢者は昭和１７年卒です。
当稲門会発足の前年秋、奥島総長（当時）が部長を務めておられた早大探検部の在住校友の縁もあり、その奥島総長を「東村山の教育と文化を考える会」に招き、講演をしていただきました。市長選がらみの講演会ではあったのですが、在住校友も大勢出席し大盛会でした。折角大勢集まったのに、これで終わりではもったいないと言う声が上がり、これが東村山稲門会誕生の切っ掛けとなりました。以後有志１０数人が１５回の設立打ち合わせを重ね、各々１万円づつの立ち上げ資金を出し合って発足に至ったものです。

中根さん　平成９年１２月の清瀬稲門会発足の少し前からオペラ鑑賞会を催行していましたが、市民の間にフアンが多くもっと頻繁に開演して欲しいという声が高まっていました。稲門会設立準備の打ち合わせで４～５名の発起人が拙宅に集まった時、たまたま置いてあったオペラのレザーデスクに彼らの目が届き、これは何だということから始まって、歌劇「椿姫」を見ることに進展し、観賞後、「これはいい、稲門会のイベントとして使おうと衆議一決をみました。結果は上々で、本会の設立目的のひとつである“**市民の方々との文化的交流**”を果たすことにもなりました。現在会員数は１０２名です。年齢構成を卒年別でみると、昭和１０年代３名、２０年代１０名、３０年代２６名、４０年代２７名、５０年代１０名、６０年代以上が２４名、平成年代となっては僅かに２名となっています。若い年齢層の加入が進まず会員が固定化し、同時に高齢化が進んでいますこと東村山さんと同じですね。

林　さん　田無稲門会、保谷稲門会は既にありましたが、平成１３年１月の両市合併で両稲門会も統合され、同年５月に西東京稲門会が新発足しました。保谷稲門会時代に、稲門会を私的に政治活動に利用する動きがあり、それを阻止した苦い経験から、初代西東京中井会長が“**稲門会は政治とは無縁**”を標榜してスタートしています。現会員数は２８０名で、推計ですが、７５歳超会員６６人を含む６０歳以上の会員が７０．４％を占めています。平成年代卒会員は１２名と少なく、やはり会員確保に苦労しています。昨年、５５歳から６５歳までの定年退職者層を狙って稲門会入会に関わるアンケートをとりました。相当な数に上っていたのですが、意外にも入会につながったのは１０数名に過ぎず、落胆したものでした。

―　ありがとうございました。各稲門会ともそれぞれ生みの苦労があり、同じように会員数の伸び悩み、固定化/高齢化の問題を抱えているようですね。
脱会する人さえいますが、会員を維持し増やしていくために、そもそも稲門会とは何なのか、どうあるべきか、そして、何をどうすべきかなどを現活動状況と合わせてお話し下さい。

西村さん　発会当時の勢いはなくなり金属疲労気味で（笑）、集員努力を怠っている感がします。
稲門会に楽しみを求めて来る、この楽しみが稲門会の基本だと思います。同窓のよしみだけではいくら金と労力をかけて入会を促しても徒労に終わります。地域の付き合いは面倒だと家に籠もってしまった人はいくら入会を勧誘しても入らないですね。

団塊の世代の新規加入増を期待し、昨年よりポストマン制度を導入して勧誘に回ったのですが、１２５周年の寄付集めではないかと思った向きもあったようです。一考を講じて、地元の当稲門会には入っていないが大学校友会費はきちんと払っている校友に搾って重点的に勧誘したところ、２０人の加入を得られました。それも何度も面談を重ねた上ですが・・。

市川さん　当会も会報、ポストマンなどで勧誘に努めていますが、どうも決め手がありません。馬を水飲み場に連れて行くのは出来ても水を飲ますことは出来ないと言う喩えの通りですね。何か中長期的な対策が必要と思います。

中根さん　**市民を巻き込んだ文化活動**が稲門会拡充に有効と思います。先ほどお話しましたオペラ鑑賞会では、校友であるなしを問わず２回続けて来場された方々を準会員として扱い、毎回案内状を送っています。色々な催しを以って一般市民とも交流し地域に関わりを深めることが会員の増強につながり、稲門会のあるべきひとつの姿勢だとも思います。

中根さん

校友でない人が稲門会のサークルに入り部の幹事をしているケースさえあります。稲門会会費はいただいておりませんが、大学への寄付金、部への助成金などは応分に割り当てています。

魅力ある同好会は稲門会の礎

林　さん　随分とお金もかけて会員増強に努めてきたつもりでしたが、費用対効果は芳しくありません。現状を見るに同好の士が集まるサークルの存在が加入の動機となっている人が多いように思います。好きなサークルを求めて、他地域、他大学から入部している人は当会にもいます。地域・稲門の枠を外して会員増強を図るのも一策かもしれませんね。魅力ある同好会は稲門会の礎、裏返せば稲門会は同好会で成り立っていると言えるのではないでしょうか。

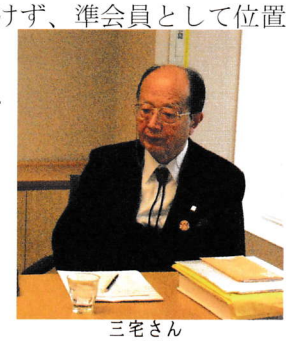
三宅さん　会員確保は文書の投函だけでは難しいですね。配信さえも迷惑だ、ましてや来てもらっては困るという校友もいますが、やはり勧誘に口説き回るのがどうしても必要で、また手っ取り早いと思います。西村さんが言われた‘地域稲門会には入っていないが校友会費は払っている人を掘り起こす’のは確かに一案だと思います。稲門会そのものには興味関心は薄いが、同好会には魅力を感じている会員、「ゴルフは好きだからゴルフ同好会には入っている」、「稲門会は飲み会じゃないの」など時に聞かれる話です。「**同好会があるから本会が成り立っている**」と言う側面もありますね。

―　アトラクティブな催し、魅力あるサークルは確かに不可欠ですね。貴会の特に力を入れている催し、人気高い特徴的なサークルについてご紹介下さい。

市民との文化的交流も

中根さん　オペラ鑑賞会ですが、９８年４月より隔月開催していたものを、人気に応えて、翌年２月より毎月開催に切り換えて、この１１月で延べ入場者数は１０，２７０人となりました。これは入場時記帳していただいた人だけの数字ですから実際にはもっと多くを数えるものと思いますが、他稲門会からも多数参加いただいています。オペラ鑑賞会以外にやはり市民を交えた餅つき大会やそば・うどん打ち会なども好評です。定期・不定期を含めて現在２０の部会がありますが、この内１５～１６部会には一般市民も参加しています。一般市民からは部会費は頂いていますが、稲門会費は当然頂けず、準会員として位置づけています。

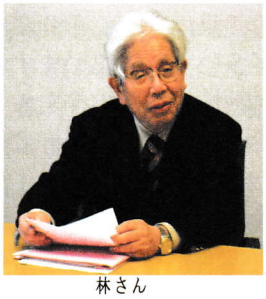
三宅さん　奇数月に「東村山雑学講座」と称し、各方面の講師をお願いして、会員に加えて市民参加で講演会を催しています。この１１月で５４回目を迎えましたが、毎回６～７０人の参加を見て好評を博しています。また毎月会員の「お誕生日会」を開いています。新しい人に稲門会に触れる機会を設けること、併せてお互いの近況を確かめ合い談笑するのがねらいですが、思いがけない生い立ちや人生の裏話など随所にサプライズや示唆に富む話も出て極めて有意義です。今１０月で３周目に入りましたが、私も毎回出席して誕生月の会員に祝辞を述べ、ささやかな早稲田グッズなどのお祝い品を差し上げていますが、皆さん一様に喜んでおられます。


三宅さん

所属する稲門会の垣根を越えて隣接稲門会とも交流する動きもあります。当会には１１の同好会があり活発に活動していますが、麻雀やゴルフ同好会等では近隣稲門会と一緒にプレイしようという提案も出ています。東村山は柏崎市と姉妹都市関係を結んでいます。両稲門会で親交を深めたいという動きもあります。

市川さん　当会では映画鑑賞会を玄人はだしの会員の解説付きで一般市民に無料公開して、２～３ヶ月に１回ほど開催してますが、大好評を博しています。既に２０本余の往年の名画を上映していますが、近在他市からも沢山の人が参集して大変な盛況ぶりです。東久留米には格好な大型会場がなく会場確保が大変ですが、一般市民とのふれあいが深まり、そして何よりも嬉しいことに「トウモン会」の名が定着流布したことです。「イネモン会」と読み違える人はもうかなり少ないのではないでしょうか。残念ながら会員の増員にはつながっていないようです。他に高人気のものとして「男の料理を楽しむ会」、「ウォーキング会」など挙げられますが、ウォーキング会は既に２４回に亘り各地名勝、歴史コースを踏破しています。部会も書道部、囲碁部、俳句部、太極拳部、グルメ部、女性サークル等と多彩で、書道部は独自の部員の作品展を催し市民の好評を高めていますし、太極拳部は他市からも一般市民が加わり毎週賑々しく活動しています。皆様方近隣稲門会部会との交流も深まっています。既に囲碁部は西東京部員さんと共に楽しく研鑽しているようですし、俳句部では東村山さん等と共に吟行などしようという気運が湧いているようです。慶応三田会との交流も盛んでゴルフ部では春、秋年２回の対抗戦を行っています。どっちを上にするかで他愛なく揉めていますが、マークに早慶校旗をあしらって共通のゴルフ帽子を作る話も進んでいます。

林　さん　保谷・田無の２市稲門会の併合もあって、週に２～３度から年に１～２度と開催頻度はまちまちですが、それらを取り混ぜたサークルの総数は２１と多彩なサークルを持っています。サークルとして言えるかどうかは別にして、異色の結婚相談室なども設けています。その筋の専門女性が担当していますが、今のところ成功例はないようです。


林さん

三田会との交流は西東京でもかなり緊密です。市長が三田会員であることもあって、一緒にやる場面が多々あります。単独稲門会の垣根を広げ広域稲門会でイベントを組むことは大いにやるべきと思います。

―　西村さんは三多摩支部長も兼任されています。先に「早稲田大学創立１２５周年記念　WASEDA125 フェスティバル IN 小平」を主催されました。大変な盛況でご苦労も多かったことと思います。今日は三多摩支部からの視点でお話し頂ければと思います。

広域稲門会の共同企画でイベントを

西村さん　特別企画として、早大入学後間もなく悲惨な交通事故で命を落とした息子に代わって、息子の果たせなかった早大生活を完遂すべく同じ早稲田に高齢入学を果たした鈴木共子さんの実話を映画化した「ゼロからの風」を放映したのですが、皆様のご協力により大盛況裡に終えることが出来ました。チケットの販売など大変ご協力いただき有難うございました。会場ルネ・こだいらがほぼ満席となるほど校友、家族、一般市民が駆けつけてくれ、稲門会とはこういうこともやる団体なのかと認識を新たにしてくれた方々も多く、稲門会の良い PR にもなったと思います。広域稲門会による今回のような企画は今後も是非続けて行きたいですね。各稲門会の協同企画でイベントを興すことが相互の絆を強め、合わせて地域に稲門会の何たるかを PR できるものにもなると思います。

―　ご苦労様でした。大成功をおさめたのは西村支部長、林副支部長を始め小平稲門会員のお陰だと思います。
さて、１２５周年記念式典は、ご案内のとおり万来の内に行われましたが、記念事業募金の方は目標額２００億円に３０億円ほど達していないと聞いています。来年３月まで募金期間がありますが、かかる一連の大学募金活動にどう応え、更にはどう大学とかかわっていくかは議論を呼んでいるところです。忌憚のないご感想をお聞かせ下さい。

市川さん　母校に対する思いは多様で勿論強制はできませんが、ここで思い浮かぶのは慶応との違いです。慶応は来年創立１５０周年を迎えますが、記念事業募金目標額２５０億円に対し既に２００億円は突破したと聞いています。
慶応は塾への帰属意識というよりも、慶大生間の人の繋がり結束がより強固で、それが社会に出ても強力

に作用しているようです。在学中よりも社会に出てからの方が慶大を好きになったと言う慶大生が多いと有力誌で塾長が述べていることからも、卒業後に、より同窓意識が高まって、社会における塾生の絆の強さに繋がっていることが伺えます。「学年三田会」の結束も強固で校友会の重要パートを担っているようです。正式登録されている職域稲門会数が３６１と少ないのも気になります。校友数・企業数に比して余りにも少ないのではないでしょうか。この辺に募金が伸びない一連のファクターが潜んでいるのではという気がします。**年次・職域稲門会の強化・充実は地域稲門会の増強**にも繋がると思います。

林　さん　　私は早大生の大学への帰属意識、結団力は強いと見ています。当会でも三田会との交流は結構しているのでしばしば見聞きしてますが、三田会は時にひ弱にも見え、現に稲門会を見て羨ましがっている三田会員も大勢います。だだ、此のところ早稲田の予備校での評価が相対的に下がり、受験生が慶応に傾斜している事実は否定できず、早大教職に携さわっていた身としては実に淋しく残念なことです。

―　母校に対する思いは多様で、いろんな見方があると思います。話題は尽きなく、まだお話いただきたいこと沢山ありますが、時間も来てしまいました。最後に皆様方の稲門会に寄せる思いを一言づつ述べていただき閉会にさせていただきます。

稲門会は第二の心のふるさと

西村さん　　地域文化の発展に貢献できる活動を心がけ、特に５０代以降の会員が地域で生きがいを感じられる場をつくる。そんな思いで、より和やかにより楽しくやっていきたいと思います。

三宅さん　　まずは会員皆さんが楽しくあることが肝心だと思っています。会長の心配りも肝要と心得ています。
今回の素晴らしい企画で種々有意義なお話をいただきました。参考にしたいと思います。

中根さん　　私はこの１１月会長職を離れましたが、市民を広く受け入れて市民と共に稲門会を発展させたいと思います。

林　さん　　校友に稲門会の面白さ、愉快さを知らしめ、地域の人たちとも楽しい輪を広げて行きたいと思います。政治運動は御法度ですが・・・。

市川さん　　校友の一体感を深め、地域稲門会を「第二の心の故郷」と位置付け、その故郷を大切に培って行きたいと思います。

―　本日は長時間有難うございました。当会で先鞭を切らしてもらいましたが、このような機会をまた設けて、お互いに刺激しあい協力しあって、稲門会の発展、会員の活力に寄与できればと思います。
会長各位、各稲門会のご繁栄をお祈りいたします。

（平成１９年１１月２８日収録。於：東久留米成美教育文化会館会議室）

＜東久留米三田会からのメッセージ＞

東久留米三田会副会長　　金田正也

今から 5 年前、当会設立作業期間中の慶應義塾との話し合いで、昔の地域三田会は現役世代中心であったが今では高齢化が進み老人会のようになっている三田会が多いこと、そのことが原因で現役世代や女性の塾員が入会しない・出席しないこと、その地域で働いている塾員が中心にいないと財政面でも活動面でも活性化しないこと等々、全国の地域三田会共通の問題点が指摘されました。三田会が現役世代や増加し続けている女性塾員を組織化できていないことは大きな問題で、それらの問題点に対応できる三田会を作ってほしいとの要請があったことを覚えています。

当会では役員を現役世代や女性会員中心にする、対外的なイベントを主催する、女性会を設置する、等々の仕掛けで会を運営していますが、やはり高齢化が進んでいます。他の地域を見ますと、定年を設けた現役世代三田会の設立が見られ始めており、この動きは今後も続くのではと思っています。

貴会は東久留米における同窓会組織として先輩であり、当会はいろいろな面で貴会の活動を参考にさせていただいております。会員の高齢化等々の共通する課題にどのように対応していくか両会で知恵を出していければと思います。

東久留米稲門会小史散歩　（その三）名勝・歴史を訪ねて

東海村原発

散策山歩き部会、ウォーキングを楽しむ会の足跡

東久留米稲門会発足の翌年、未だ各部会が誕生する以前の平成８年（1996 年）１月に有志で建立間もない「田無タワー」を訪ねたのを皮切れに、５月に早大人間科学部、７月に東海村原子力発電所見学会を実現し、翌年（平成９年）３月には、小金井公園観桜会を催した。散策山歩き部会は平成８年夏発足を見、日和田山、子の権現、秩父丘陵、飯能七国峠、名栗湖、御岳・大塚山・御岳渓谷、天覧山・多峰主山、妙義山麓（グルメ部会と共催）、顔振峠、鎌倉大仏コース、高尾山、武蔵横手～東吾野、三峰山を次々と登攀してきている。

平成 15 年にはウォーキングの会が発足し、水元公園と江戸川堤をスタートに、ほぼ２ヶ月に１度のペースで、谷津干潟・サッポロビール、深川界隈、谷中七福神・豆腐料理（グルメ部会と共催）、豪徳寺～羽根木寒梅、駒込駅～六義園～根津神社、菅谷館跡・蝶の里～武蔵嵐山、見沼代用水東縁、汐留新都心～高輪泉岳寺、都庁～明治神宮初詣、吉野梅郷、横浜みなとみらい～山手西洋館、埼玉吹上町さわやかコスモスの道、護国寺～雑司が谷鬼子母神～早稲田、向島百花園～浅草、盆栽村～大宮公園、武蔵国分寺～殿ヶ谷戸庭園・滄浪泉園、赤穂義士引き揚げの道（両国吉良邸跡～新橋）、小石川後楽園～小石川植物園、トトロの故郷～狭山丘陵南麓里山、染井霊園～旧古河庭園～飛鳥山、大宮花の丘公園・界隈の神社、神奈川宿歴史散策とキリンブルワリーツアーと、脈々と続けられている。

早稲田大学創立１２５周年記念

早稲田に向かって125キロ市民駅伝ウォーク

会員の奥さんが見事に完歩！

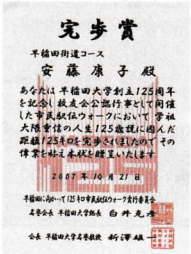
＜当会員安藤信雄さんの奥さん・康子さんが参加された。以下は安藤さんのメモから要約させてもらった歩行紀である＞

早稲田に向って

９月２３日（日）朝８時、第１日目がスタート、高崎市役所から本庄駅の２５ｋｍである。生憎の雨天で雨具着用の歩行となったが、参加者８５名は無事本庄駅に到達。トップとラストの時間差は約 2.5 時間だった。２日目は９月３０日（日）、本庄から小川町の２８ｋｍ。今日の参加者は６９名、またも冷雨のそぼ降る中、吉田信解本庄市長の出発宣言の後、早大本庄キャンパス、寄居町などを経由する奥武蔵野の道を辿る。雨のため、歩行スピードは逆にアップ。午後２時、最終者が２日目の目的地小川町に到着。

１０月７日（日）、３日目は快晴に恵まれた。朝、スタート地点の小川町役場に５０余名が集結して東飯能までの３０ｋｍを若い校友が持つ幟旗を先頭に壮快に歩いた。途中、ゆずの里で一休み、ここで 10km ウォーキングの皆さんとお別れした。

４日目、１０月１４日（日）も気持ちよい秋晴れ。東飯能から早大所沢キャンパス、狭山湖を経由して国分寺・早実までの最長区間３３ｋｍである。途中の玉宝公園で今日の参加者７０数名の記念撮影。所沢キャンパスでは、設立 20 周年記念イベントの真最中で職員，学生達に出迎えられ嬉しい挨拶をいただいた。


完歩賞

平稲田街道コース

安藤康子殿

あなたは 早稲田大学創立125周年を記念し 故郷会公認行事として開催した市民駅伝ウォークにおいて 学祖大隈重信の人生125歩程に挑んだ距離「125キロ完歩賞」を獲得したのでその偉業を称え 賞状を授与いたします

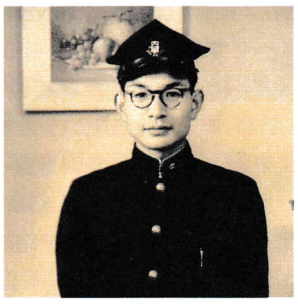
2007年10月21日

10月２１日（日）晴れ。愈々５日目の最終区間。国分寺・早稲田実業を起点とし、東伏見早稲田グランド、早稲田高等学院、井草森公園、早稲田通り、高田馬場、グランド坂、終点早稲田大学までの２８km である。狭山湖で昼食をとった後、参加者皆で「１２５才まで元気に歩こう」「ワセダに向って歩こう」の横断幕に記念サイン。午後２時過ぎ、１２５周年記念行事で賑わう大隈講堂前に到着。５日に亘る５区間合計１４４ｋｍの駅伝ウォークは心地よい疲れを残して終了した。完歩者同士、健闘を讃え合い、頂いた１２５ｋｍ「完歩賞」を胸にお別れした。

わが早稲田時代

昭和の一日

末松　毅（昭28年卒・政経）

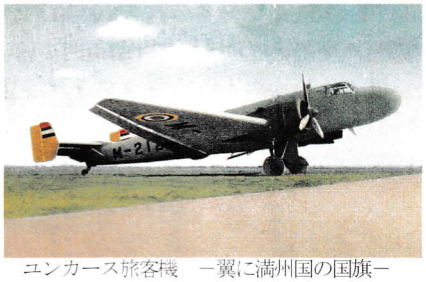


「天宇を仰ぎ松風を聞く」と掛軸にある。米子・皆生（カイケ）温泉「東光園」は、早大出身の建築家／菊竹清訓の傑作と言われ、彫刻家・流政之の造園と偉容を誇っている。相俟って見事な調和を見せ、しかし、戦後大幅に改築されたこの旅館を、久々に訪れた私にとっては、何か期待外れの物足りなさを感じさせられた。

―昭和十九年七月十八日―

この日私（当時旧制中学生）は、母と「羽田空港」に来て、搭乗を待っていた。早大在学から「学徒出陣」に応じ、海軍経理学校に入校した長兄との別れを終え、当時住んでいた新京（旧満州国の首都・現長春市）に戻るためである。その頃は言うまでもなく「プロペラ」機で、乗客数も僅か10名の「ユンカース」86型。今から考えると、随分小型であったが、それでも羽田－新京間を無着陸で飛行できる、当時としては最新鋭のドイツ製「旅客機」であった。機は安定した飛行を続け、やがて日本本土を離れ海上にさしかゝるのか、と思われた時、いきなり機首を下げ地上に向かって降下し始めた。一部の乗客が慌てて同乗の「エアガール」（のちのスチュアーデス）に尋ねたが、彼女も何もわからぬらしい。ひと言の説明もないまま、やがて機は着陸。そこは「米子空港」という予定にない着陸地であった。そしてまた何の説明もないままバスに乗せられある旅館へと運ばれた。

木の香漂うしっとりと落着いた、その和風旅館が「東光園」と言うことを後になって知った。予期せぬ出逢いではあったが、この宿の緑に包まれた閑静なたゝずまいと心温まるもてなしは、不安で苛立っている一同の心を、少しずつ癒してくれた。和服姿の姐さんが親切に案内してくれた近間の海岸線は、美保関を遠望に、長くつながる白砂青松が日本海の荒波に美しく映えて、その風情は、正に一幅の絵画のようであった。その穏やかな雰囲気の中、もし幸運にもこの戦争をくゞりぬけ、私に「未来」というものがあるならば、是非もう一度この地を訪れて、この素朴な旅情に、じっくりとひたってみたい、との思いを心の中に強く抱いた。翌朝、また何の説明もないまま、一同「ユンカース」に誘導され、黙々と平穏な「新京」に戻ってくることができた。



ユンカース旅客機　―翼に満州国の国旗―

帰宅してみて驚いた。「サイパン島壮絶全員玉砕」「東條内閣総辞職」「小磯国昭大将後継首班に指名」等の文字が紙面に踊っている。昨日（七月十八日）という一日が、わが国にとって重大な戦局転換の日となっていたことを始めて知った。そして吾々が「米子」などという所で、思わぬ一夜を過ごさせられたのは、小磯朝鮮総督が大命降下で上京するのに、偶々同じコースで交錯する吾々が、極秘の中、急遽「飛行停止」にあったのだ、ということも追々に解ってきた。

思えば歴史に残るようなヒトコマに、本人は何も知らないうちに巻き込まれ、かゝわりあったことになる。そしてそれからの一年、日本は空爆にさらされ焦土と化し、ひたすら敗戦へ向かって直進することになるのである。　敗戦・引揚げ・国中綱渡りのような日々。お互いによく生き延びてきたものだと思う。そしてようやく世の中も落着き、安定してきたので、やっと宿願の米子に行く機会を持つことが出来た。「東光園」は、昭和39年の改築ですっかり様変わりしていた。確かに近代的で立派な建物にはなっていたが、そこには期待していた素朴な木の香の風情は失われていた。そして、あの眼に焼きついた海岸線の美しさも、整然と計画的に加工され、かつての旅情ゆらめく自然の姿は、もう見出すことが出来なかった。

「天宇に松風を」も今は昔。遠くなった昭和の一日を、ひそかに思い返していた。

〈編集者註：昭和21年9月に引揚げ、昭和22年早大高等学院を受験入学。掲文は筆者の入学前の「昭和の一日」である〉

平成１９年度　東久留米稲門会の活動

[行事] ▼4月8日第13回定時総会　来賓11名・会員出席者61名,文化講演会清水廣宣氏「生活習慣病の予防」～どうしたら100歳まで健康でいられるか～　▼新年会1月27日成美会館参加者45名　▼秋の男料理を楽しむ会10月成美会館参加者35名　▼役員会2、3、6、8、10、12月6回開催　▼講演会10、12月2回開催　▼ウォーキングを楽しむ会　後楽園、小石川植物園2月、トトロのふるさと狭山丘陵南麓の里山を歩く4月、染井霊園・旧古河庭園・飛鳥山6月,大宮花の丘公苑と周辺寺社巡り10月、神奈川宿、歴史の道散策とキリンビール工場12月　▼映画鑑賞会「黄昏」2月、「アフリカの女王」6月、「マイフェアレディー」9月、「雨に唄えば」11月　▼カラオケを楽しむ会7、12月開催　▼東京六大学野球早慶戦を観戦する集い5月,10月　▼ラグビー観戦対ケンブリッジ大学9月、早慶戦11月、早明戦12月　▼芸術鑑賞「名曲コンサート」日フィル11月　▼お誕生会　7月より毎月第三水曜日「鮮乃庄」開催

[広報]　▼会報「杜の西北」13号発行3月　▼東稲ニュース　1、3、5、7、9、11月6回発行　▼ホームページ 随時更新　▼会員名簿発行7月

[大学・校友会との交流]　▼代議員会3、9月　▼商議員会7月　▼早稲田大学創立125周年式典10月21日、早稲田大学ホームカミングデイ10月20日　▼125周年記念事業募金270,000円（135名）当会名義300,000円。募金累計額2,772,150円　▼近隣稲門会との交流　西東京稲門会総会5月、清瀬稲門会総会11月、東村山稲門会総会11月、三多摩支部北ブロック七稲門会会議6月、三多摩地区会長事務局長会議8月、地域発125フェスティバル「ゼロからの風」上映9月、東京三多摩支部大会12月

[東久留米三田会との交流]　▼定時総会5月、ゴルフ対抗戦6、11月

平成19年度東久留米稲門会収支決算書
（自平成19年1月1日至平成19年12月31日）

支出の部		収入の部	
科　目	金　額	科　目	金　額
総会費	346,879	総会収入	270,000
通信費	25,270	(54名×5000)	
印刷費	34,850	年会費	468,000
消耗品費	49,857	(156名×3000)	
交際費	62,000	祝金	20,000
会議費	13,450	校友会	
部会補助金	80,000	補助金	99,000
「杜の西北」		利息	338
制作費	174,800	雑収入	78,730
ホームページ	30,000	前期繰越金	371,609
イベント			
補助金	22,000		
寄付金(大学)	354,500		
弔慰金	30,000		
繰越金	84,071		
合　計	1,307,677	合　計	1,307,677

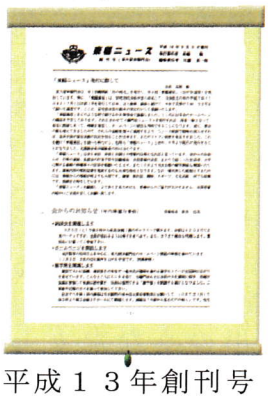
三位一体の広報活動

杜の西北

広く校友に情報を発信する会報紙

平成７年創刊号
年一回　1500部発行

東稲ニュース



会と会員、会員と会員を結ぶ機関紙

平成１３年創刊号
隔月　１８０部発行

ホームページ

早く広く発信する電子情報紙

http://homepage2.nifty.com/35292/

平成１３年開設
アクセス数　19600

結婚には出会いが大切
◆更新料ナシ、ご成婚までお世話させていただきます。
◆初婚、再婚、年齢不問、無料相談受付中
◆毎月お見合いパーティー各種有り　◆プライバシー厳守　◆礼金後払い
日本仲人連盟・日本ブライダル連盟　ひばりヶ丘良縁センター
TEL042-424-8091　ご一緒に頑張ります!
カウンセラー　吉田 澄子
東久留米市浅間町3-12-4-116（ひばりヶ丘駅北口徒歩7分）http://www.hibari-de-omiai.com/

印刷一般　オンデマンドプリント　明文社
●各種報告書　●広報誌　●ポスター・チラシ
●大判カラープリント　●プログラム
●オンデマンド印刷（必要な時に必要な数だけ）
●名刺・封筒・ハガキ　●その他印刷一般
〒187-0031 東京都小平市小川東町1-18-4
http://www.meibun-sha.co.jp/
E-mail:meibunsha@meibun-sha.co.jp
tel.042-345-8619
fax.042-345-8621
自費出版・記念誌お手伝いします!
西武国分寺線小川駅より徒歩3分

総　会

第１３回定時総会
平成１９年４月８日

帆角会長退任挨拶

市川会長新任挨拶

おひらきは皆で「都の西北」を高らかに

映画鑑賞会

米光さんの名映画解説が好評

市民の皆様でいつも満員の盛況

お誕生会

毎月　Happy birthday to you の
歌声で楽しいゆうべ

男料理

俄かシェフが「俺の自慢の一品」と
腕をふるって

趣味悠遊　躍動する各部会

東久留米稲門会が平成７年に誕生すると殆ど同時に、いくつかの部会が発足しました。
その後、部会は徐々に増え、現在、多彩に活動を展開しています。
ここでは、それらの中から、定期的に催行されている部活動についてご紹介します。
当会々員と、その家族なら、いつでも見学・参加できます。いずれも初心者歓迎です。

書道

書を心の拠り所として

平成９年１１月にスタートした時、殆どの部会員が何十年ぶりかで筆を持つといった調子でお互いに顔を見合わせ、いささか前途が危ぶまれる雰囲気でした。しかし、各自が楽しみながらも熱心に、書の基本である「永」の８画の運筆法の練習に取り組み始めました。

毎月一回、第２日曜日の午後集まり、古典の臨書・自由課題・実用書道等を合同練習して来ました。基本を大切にしながら、古典から運筆と表現のバリエーションを学び、個性豊かな書を目指し創作へ挑戦し、更に季節の挨拶などにも取り組み、互いに批評、鑑賞し合っています。

夏期には合宿錬成会を重ねて、お互いに自己研鑽、切磋琢磨に努めてきました。

数年前からは市民文化祭書道展に協賛出品し、更に秋には隔年、当部員の書作品を一堂に展観する作品展を開催しています。

昨年の１１月には創部１０周年を記念して「第４回作品展」を成美教育文化会館で３日間開催しました。展示した力作９０余点は４００余名の方にご覧戴きました。

盛況だった　第四回　作品展

百回目の 句会を迎えます　俳句

毎月第三日曜日に句会を催し、各自が兼題二句と当季自由句一句を投句し、その披講と合評を行います。吟行は年二回行います。春には日帰りで山野を吟遊し、秋には一泊で句友とゆっくり談笑します。

今年は創部十二周年にあたり、記念すべき第百回目の句会を迎えるので、部員一同張り切っています。

これまでの句作の中から、各部員が選んだ自詠一句を紹介します。

赤い実の食べ尽されて冬の空　安宅　武一
秋しぐれ日蓮あゆみし城ヶ崎　市川　英雄
湯に浸り虫の音を聞く至福かな　大川　洋子
天平の礎石に座して春の夢　大久保泰司
春風やゴムで束ねし幼な髪　太田蔵之助
一輪の菜の花友となす日あり　川島　知子
湖越しに榛名の嶺の薄紅葉　川俣　栄一
残菊や小町ゆかりの化粧井戸　河村　洋子
更衣(こうもがえ)なほ一憂を捨てかねし　神田　尚計
昨夜(よべ)の雨ものの芽動く気配あり　坂本信太郎
海の日や手旗振りにし少年の日　桜庭　明
樫若葉したたるばかり水稲荷　三田　三
秋蝶の訪れもある書庫の昼　杉本　達夫
陽はまぶし春野の果ての峯白し　高塩　和巳
ゆきすぎし女(ひと)ののこり香夏帽子　高橋　勤
大の字になりて風呼ぶ青簾　橘　優治
句友逝く狭庭散り敷く花みずき　棚野　愛子
菜種梅雨小粋な傘の江戸仕草　馬場　清彦
肘枕小さき庭の半夏生　比護喜一郎
柴犬の耳は起きてる昼寝かな　本間　信一
麦秋の穂波に風の形かな　松田　博雄

対外戦も積極的に

囲碁

当囲碁部は東久留米稲門会発足とほぼ軌を一にして設立され、数多い部会の中でも最も歴史のある部会の一つです。

現在、部員は女性１名を含め約２０名で、棋力は最高九段から初心者まで幅広く分布し、中には日本棋院普及指導員も居り、初心者指導には特に力を入れています。

毎月第４日曜日の午後の月例会で部内熱戦を展開する外、毎年秋期開催の合宿囲碁大会で日ごろの研鑽の成果を競い合い、夜はその土地の料理と酒を楽しんでいます。

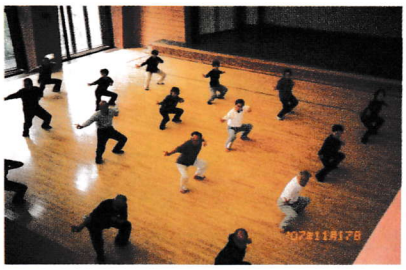
対外的にも積極的に活動を展開しています。近隣稲門会囲碁部との親善対抗戦を行い、恒例のオール早稲田囲碁祭にも参加しています。昨年６月に市ケ谷の日本棋院本院大会場で開催された第７回オール早稲田囲碁祭は参加チーム５０、参加者２８０名という一大イベントでした。

囲碁早慶戦も盛んで、特に昨年は早稲田大学１２５周年記念大会ということで「第４６回オール早慶囲碁フエスタ」が１０月に開催されました。参加者は、例年は各校５０名前後でしたが、一挙に「１２５人対局」となり、当部会からは　有段者４名が参加しました。

秋の合宿
南房総　鵜原にて

心身ともに健全に

太極拳



毎週土曜日の稽古
二胡の音楽に合わせて

平成１３年９月に発足した「太極拳部会」は、平成１９年３月から、新生「太極拳の集い」として再出発しました。

稽古は毎週土曜日午前１０時から成美教育文化会館で行っています。

太極拳にはいろいろな流派がありますが、発足当時から「揚名時の太極拳」を稽古して来ましたので、稽古カリキュラムの基本は揚名時の著書を参考にしていますが、他流派の書籍も参考にして、新しい内容を織り込んでいます。

先ず第一に、準備運動を取り入れたことです。身体各部のストレッチをして、筋肉をほぐすことを主体にしています。

第二に、ビデオによる稽古も時折取り入れています。

更に、太極拳に限らずスポーツ全般に言えることですが、下半身の動き（腰の回転、体重移動、バランス）に重点を置いて部分稽古を行っています。

また稽古中に流す音楽も、太極拳に相応しい二胡の音楽を使っています。

今後もいろいろな情報を仕入れ、太極拳を楽しみながら、心身ともに健全・健康になるよう稽古を続けて行きます。

この他にも創部１０年がぞくぞく

▼女性サークル 歴代会長を囲んで懇談会 ６月。 林芙美子記念館訪問 １１月。 ▼ゴルフ部 ３、１０月。 ▼グルメ部会 東村山草門去来荘 ７月。 太田氏宅バーベキュー １１月。 ▼散策山歩き部とウオーキングを楽しむ会 ６Ｐの「東久留米稲門会小史」ご参照。

第二の心の故郷、稲門会

東久留米稲門会々長　　市川　英雄

当会は創設１４周年を迎えます。平成７年４月１６日、東久留米商工会館での設立総会には６６名が参加し、今日の１５５名へと発展しました。設立時の本会の目標は“第二の心の故郷”づくりにあり、併せて母校と東久留米市の発展に寄与することにありました。

母校早稲田大学は、昨年、明治１５年創立から数え１２５周年を迎え１０月２１日には記念式典が盛大に行われ、第２世紀へと踏み出しました。校友会も３年後の２０１０年に設立１２５周年を迎えますが、これを機に校友会組織と大学支援の強化を図るようです。我が稲門会もこの校友会の傘下組織ですから、校友会の動向を見守りながら、引き続き「第二の心の故郷」を目指して参りたいと思います。

「人生劇場」をご存知だと思います。私は在学中、尾崎士郎の小説に感動し、卒業後間もなく流行った歌も覚えてよく歌いました。皆さんも卒業後、各人各様に人生劇場の舞台で演じてこられて、その想い出はたくさんあるでしょう。しかし、人生５０年から今や８０年、いやそれ以上の時代です。

これからも人生劇場は待っています。稲門会との関わり合いは、その有意義な一コマです。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

２０年度事業計画

Ⅰ　基本方針　1）会員相互の親睦をはかる　2）早稲田大学の発展に寄与する　3）東久留米市の発展に寄与する

Ⅱ　実行計画　1）サークル活動の推進　2）広報活動充実　3）近隣稲門会、三田会との交流活発化　4）125 周年記念事業募金の推進　5）校友会会費納入キャンペーンの協力　6）大学、校友会主催会議、行事への参加　7）三多摩支部主催行事への参加　8）映画鑑賞会の定期開催　9）当会主催講演会の定期開催　10）新企画の開発と実施

Ⅲ　会員増計画の推進　1)魅力ある当稲門会を多くの校友に知ってもらう　2)会員周囲の未加入校友に働きかけをする　3）総会案内、「杜の西北」配布時に入会を働きかける

早稲田を思い、東久留米を語るコミュニティ　―　東久留米稲門会入会のお勧め

親睦、自己啓発、母校・地域社会への貢献を目的としています。政治、宗教、営業とは一切無縁です。
身近にコミュニティを広げませんか。見聞を深める、体を鍛える、或いは趣味を生かすための多彩な部会があります。お望みの同好会の創設も可能です。
年会費3、000円。入会金不要。
お問い合わせ・お申し込みは　・・・事務局・平山正徑℡473－3289まで。

WASEDA ALUMNI

惜別

上野　清　さん（昭３３年卒・政経）	平成１８年１０月逝去
清水　芳石さん（昭４６年卒・教育）	平成１９年　３月逝去
氏田　寿　さん（昭３１年卒・文）	平成１９年　５月逝去

ポケットパーク（編集後記）○「WASEDA NEXT １２５」の元年だ。１２５年後のワセダは一体どうなっているのだろうか。いや、その前に日本は、世界は、地球は、そして人類は・・、いくら思いを馳せても終わりはない。「歳月、人を待たず」、せめて,“第二の心の故郷”で明るい未来を夢見、闊達に今を過ごして行きたいものだ。○編集に携わっていただいた諸兄姉のお陰で、本号には若干なりとも新機軸を加味することができたと自負しています。

一方、予定を超えて１２頁版としながらも、尚紙幅の関係で一部部活動など割愛させて戴いた箇所もあります。失礼をお許し願い、大方のご批判を頂ければ幸いです。（比護）

「杜の西北」第14号　2008年3月

発行人	市川英雄
編集人	比護喜一郎
編集委員	神田尚計　菱山房子
	松崎博　鮎貝盛和
事務局長	平山正徑
題字	高橋勤
印刷所	明文社